



民主党神戸市会議員団 川原田弘子ニュース
ひろこだより VOL. 5

ゴミと資源の分別・新キャラクター、名前は「トコトン」です。ワケトンの妹です。11月からの新ルールを、みんなに広めるためがんばります。

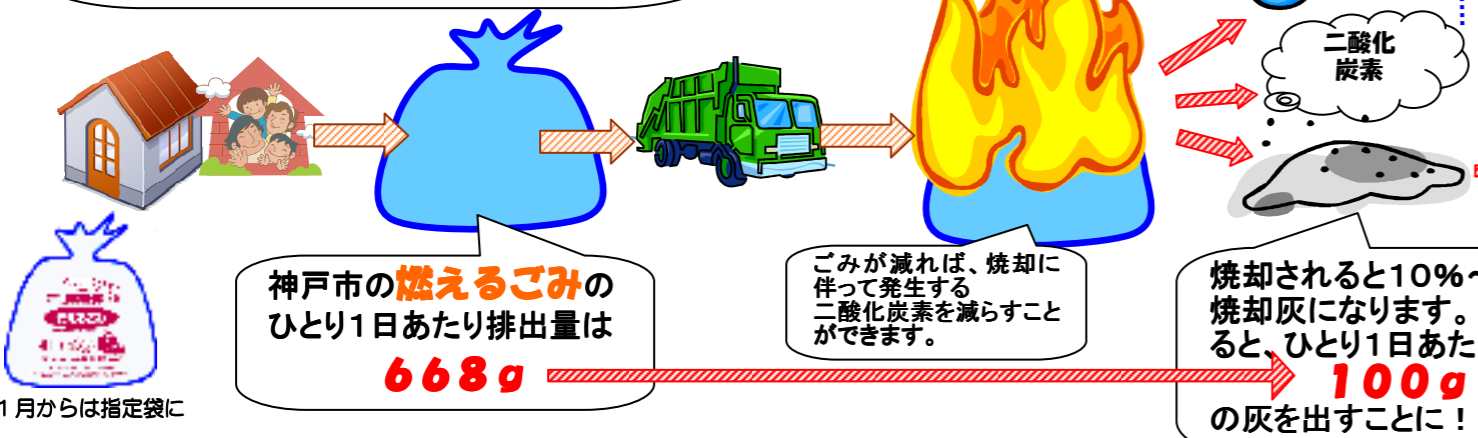
トコトンは、今までごみのことにあまり関心がなかったんだけど、ワケトンたちを見てがんばる気になったんだって。トコトンみたいな市民が増えてほしいですね。

～トコトン減らそうよ、神戸のゴミ～

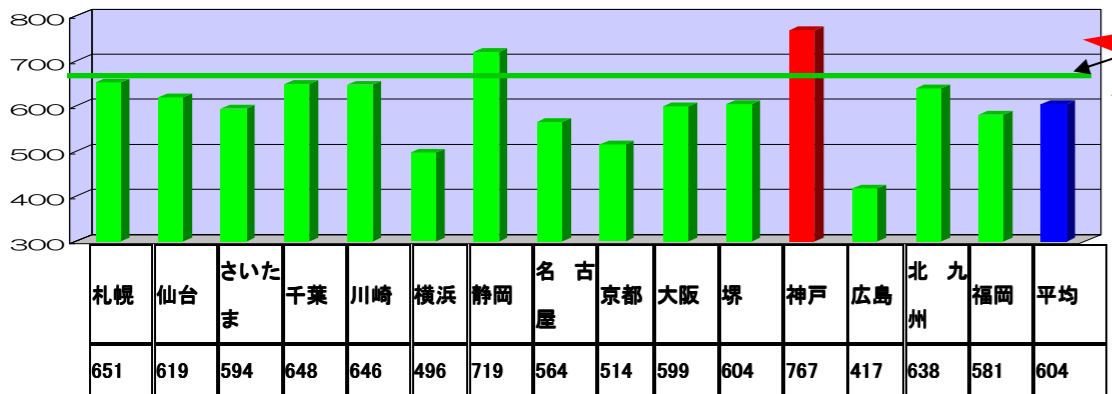
ごみの量が多いことは、いろいろな面で環境に悪い影響を及ぼします。日頃、皆さんが意識していないような問題点もたくさんあります。ごみの行方をもう一度、考えてみましょう。

～燃えるごみのゆくえ～

家庭から出る「燃えるごみ」は、市内5箇所のクリーンセンターに運ばれ焼却されます。「皆さん？ごみは燃えたら消えてなくなると思われていませんか？」お線香を焚いても、灰が残りますよね？燃えるごみも、焼却のあとは焼却灰が残ります。



大都市のひとり1日あたりゴミ処理量(燃える+燃えない)の比較



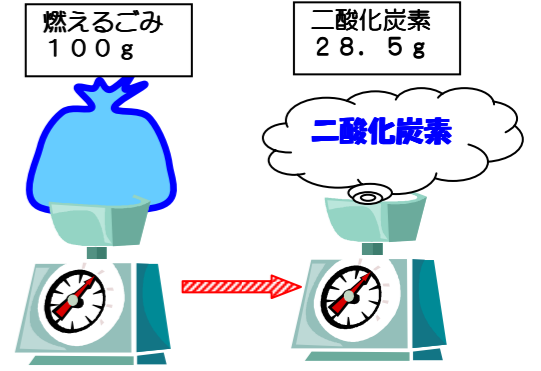
燃えるごみは **668g**

家庭系ゴミは **大都市ワースト1** 大都市平均より **163g** も多いんです！！

ベランダのマイ田んぼです。一応、秋には稲刈りを予定しています。(笑)



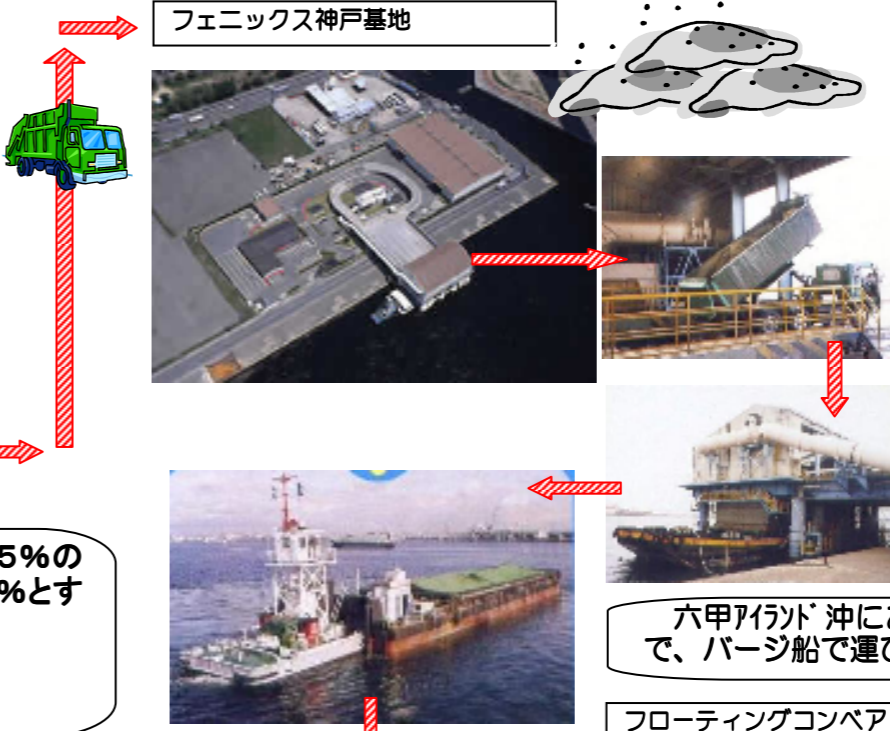
もちろん、ごみを減らすことは、焼却時に発生する二酸化炭素を削減することにつながります。また、収集・焼却灰の運搬・焼却の際のエネルギー抑制にもつながっていきます。神戸市では、こうした現状を踏まえて、11月から、新たなごみの減量・資源化の施策が、始められます。ごみを減らすことがこんなに重要だということを市民みんな考えていきたいですね。



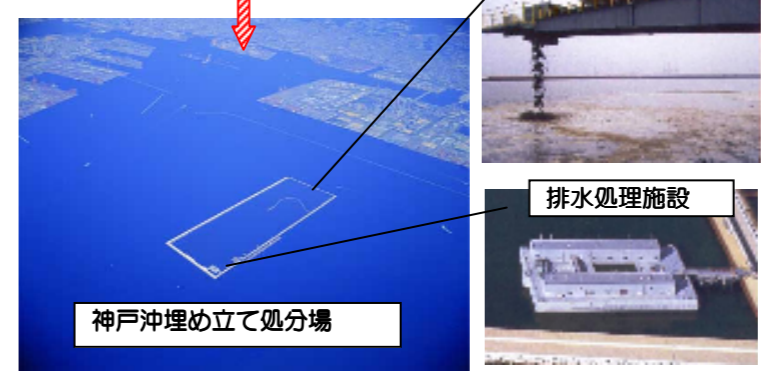
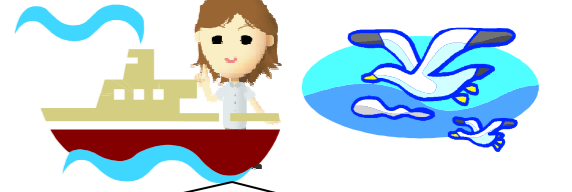
大阪湾フェニックス計画について

兵庫県を含む近畿2府4県の175の市町村の家庭や工場、建設現場などから出てくる焼却灰や土砂などを埋め立て処分し、新たな土地を造って港を整備する目的で、昭和57年に大阪湾フェニックスセンターが設立され、事業が進められてきています。事業所のほか各地で搬入基地を所有し、右記の4箇所の埋め立て処分場への埋め立てが行われています。

埋立場所名	面積(ha)	埋立容量(万m3)
泉大津沖	203	3100
尼崎沖	113	1600
神戸沖	88	1500
大阪沖	95	1400



焼却灰は、再度、トラックでフェニックスの基地である神戸基地(灘区灘浜町)に運ばれます。神戸基地では、搬入物の検査のほか、焼却灰などの保管等を行い、検査を終えた焼却灰は、投入ステージからダンピングによってバースhipに積み込まれます。



運ばれた焼却灰は、フローティングコンベアで、処分場内に偏らずに放出されます。排水時には、排水処理施設で水を浄化してから海に流します。H13年から開始された神戸沖処分場の埋め立てでは、現在約821万m3が埋め立てられました。新しい大阪湾フェニックス計画では、平成33年度までの廃棄物の受入を計画しています。大阪湾圏域の自治体では、**陸域での最終処分場の確保が一層困難**となり、一般廃棄物の大阪湾フェニックス計画への依存率が年々増大し、今後80%を超えることが予想されます。

***ひとりひとりがごみを減らせば、フェニックスの寿命を延ばすことにつながります。**